

杉 の 子

奥多摩町立氷川小学校
学校便り 11月号
令和4年 10月31日発行

挑戦する勇気を子どもたちに

副校長 野尻 迅人

奥多摩はすっかり涼しくなり、体を動かすのによい季節になりました。子どもと一緒に校庭を走り回るときも、快適さを感じます。

子どもとスポーツをしていて、気になることがあります。それは、プレーでミスをすると、すぐに謝るということです。スポーツにミスは付きものですから、謝る必要はないはずですが、ミスをするなり即座に謝る子が多いのです。ただそう言う私自身も、ミスをすると反射的に「ごめん」と口にする癖があります。この癖は、学生の頃取り組んでいた野球で身に付いてしまった負のレガシーだと、自分では分析しています。とにかくよく怒られました。自然と、ミスをしないよう、無難なプレーに終始するようになってしまいました。当然向上心も起きず、レベルの高いことに挑戦することはありませんでした。経験年数は長いのですが、何が身に付いたかと問われると、「体力」と言えるぐらいで、他の答えに困ります。この年齢にしては体が動くと思いますが、野球に関してはトラウマになっているのか全く自信がありません。

自分は十数年間の積み重ねで、この悪癖が身に付いてしまいました。目の前の、まだ幼い子どもが、自分と同じ理由ですぐに謝っていなければいいなと思います。子どもがミスをして謝ったときに私は、「謝らなくていいよ。ナイスチャレンジだ。」と声を掛けるようにしています。

バスケットボールの世界では神様と崇められているマイケル・ジョーダンが、次のような言葉を残しています。

私は失敗を受け入れることができる。しかし、挑戦しないことだけは受け入れられないのだ。

数々の輝かしい成績を残したジョーダンも、9000本のシュートを外し、300近くの試合に負けて、何度も何度も失敗したと振り返っています。そして、その失敗の積み重ねこそが成功の理由だとしています。失敗やミスをしてやるべきは謝ることではなく、次こそは成功させようと挑戦を続けることです。そもそも、今の自分がもっている力よりも高度なことに挑んだときには、ミスをしてしまう可能性が高まるものです。これは決して、スポーツの世界に限った話ではないと思います。どんな挑戦にも失敗はついて回り、そして挑戦しない限り成功することはありません。

子どもの成長を見守る大人は、子どもがする失敗やミスの意味をよく考えたうえで言葉を掛ける必要があると思います。成長するために挑戦をしているのであれば、その姿勢を評価し、勇気付けてほしいものです。ウォルト・ディズニーは、夢をかなえる秘訣は4つの「C」（「Curiosity - 好奇心」「Confidence - 自信」「Courage - 勇気」「Constancy - 継続」）に集約される、と言っています。子どもの夢の実現を一番願っている身近な人からの後押しが、本来もっている好奇心に向かう勇気を湧きあがらせ、粘り強く継続する意欲を高め、そして自信へとつなげていきます。失敗やミスをネガティブなものに捉えず、夢に向かって進んでいる挑戦する姿と捉え、応援してあげられたら素敵ですね。